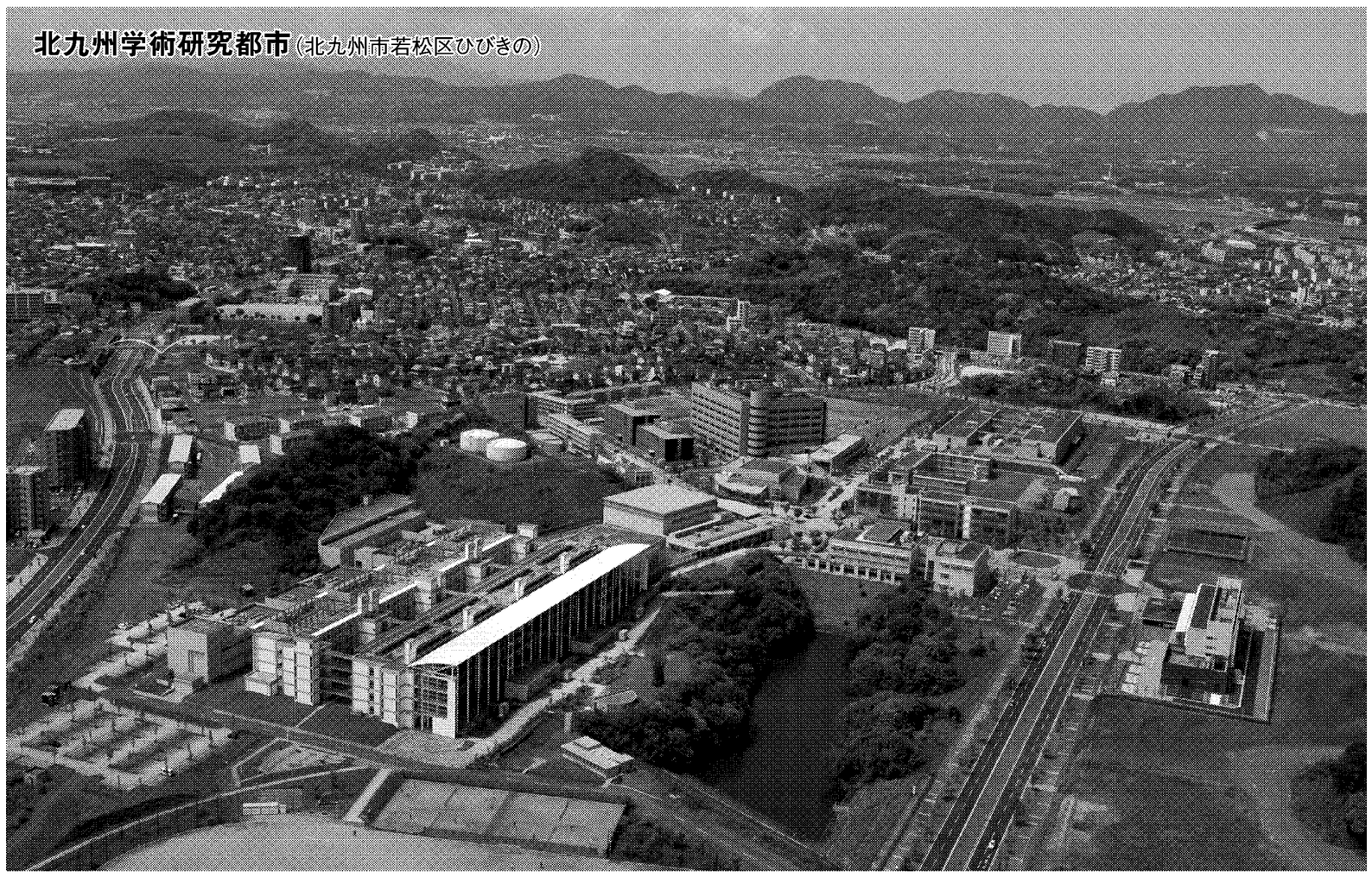
北九州学術研究都市

北九州から世界へ　北九州学術研究都市の挑戦


北九州学術研究都市（北九州市若松区ひびきの）

北九州学術研究都市10周年記念 財団法人北九州産業学術推進機構 歴代理事長 座談会

北九州学術研究都市（学研都市）の開設10周年にあたり、歴代の（財）北九州産業学術推進機構（FAIS＝フェイス）理事長による座談会を、去る5月12日（木）に開催した。進行役に北九州市とも縁の深いノンフィクション作家の山根一眞氏を迎えて、歴代理事長がこれまでの出来事を振り返るとともに、学研都市の現在、さらに未来像について語り合った。

山根　学研都市は計画段階から何度も現場を見せていただいてきましたが、日本中、どこにもあんなところはないですね。北九州市は「鉄冷え」という時代の変節を迎えつつあった時に、それをよみがえらせるために、そして次の時代を担う新しい工業都市を創造するため、そのコアになる「知の溶鉱炉」という理想を掲げたわけです。その大胆な挑戦は有馬先生の構想によると伺っております。

有馬　もともとは私が主宰する天為俳句会の仲間で第19代文化庁長官だった玉井日出夫君が、北九州市に出向して北九州市の教育長を務めていた時代があるんです。その時に、北九州市の教育および大学を何とかしようと考え、慶應義塾大学塾長の石川忠雄さんを引っ張り出したんです。その後、石川さんのお手伝いという形で学研都市の最初の構想委員会である「北九州新大学設立検討委員会」の委員に加わり、石川さんがお辞めになったあと、私が委員長に就任したことから話は始まるわけです。新大学構想の基本理念は産学官が一体になる。そして国・公・私立大学もまとめる。

山根　どうしてそういう発想が。

有馬　今は少し考えが変わっていますが、2000年以前は国立大学より私立大学の方が進んでいたということがあります。それに、当時の大学の先生は教授会中心でものを判断していたので、国・公・私立の教授会を一つに集めれば、改善されるだろうと（笑）。会議もできる限り一つにせよ、教授会も別々にやるな、一緒にやれと指示したのです。

山根　阿南さんは学研都市のプロモーター、財団法人北九州産業学術推進機構（FAIS）の第2代理事長への就任が決まった時は、当然、「鉄の町＝北九州市」の歴史、そして今後のことが頭をよぎったのでは。

阿南　ええ、長年に渡り新日本製鐵におりましたから。

山根　これはやれるぞと感じましたか。

阿南　やれる、やれないというよりも、むしろ市長がそれだけの決断をしたんですから、何としても軌道に乗せなくてはと。北九州市は私が社会人の苗の時代から育てていただいたところですから、何か恩返しをしなきゃいけないという気持ちもありました。

有馬 朗人氏

国・公・私立大学をまとめる

山根　國武先生がこの学研都市構想にかかわられたのはいつからですか。

國武　93年、慶應義塾長の石川忠雄さんを座長に迎えて新大学構想策定委員会が発足した時からです。当時、私は九州大学の工学部長でしたが、地元、福岡県のメンバーを一人、構想委員会に加えようということで、招かれたんだと思います。

山根　すぐに「これは面白い挑戦だ」と。

國武　いえ、当初の構想段階では半信半疑でした。そんな素晴らしいものが本当にできるんだろうかと。

阿南　北九州市が有馬先生のサゼスチョンも得て学研都市を実行に移したのは、私は蛮勇と言ってもいい決断だったと思いますね。

有馬　何と言っても、成功の一番の理由は北九州市が熱心だったことですよ。もう一つは土地がありましたね。335ヘクタールと広い。あれがいい土地でした。

山根　私が驚いたのは建設が早かったことです。市長からこの構想を伺ったのは95年ですが、あっという間にキャンパスができて、オープンを迎えた。

國武　最初から住宅・都市整備公団（現・UR都市機構）が入ったんですが、同公団の区画整理事業の中で最もスピードが速い区画整理事業だったということです。

山根　学研都市のビジョンの中心は、北九州市に「産学官共同」の基盤を創ることですが、阿南さんはこれについては期待されましたか。

阿南　当時、私はまだ産学官連携については「いろは」を学んだくらいでしたが、皆さんと話しているうちに、産学官のつなぎ役がやっぱり必要なんだなと、自分の役割が少し分かってきました。

山根　國武先生、ここが新しい産業を創っていく「知の溶鉱炉」になるという具体的なイメージは抱いていらっしゃいましたか。

國武　「知」は研究開発の基礎です。北九州市には九州工業大学など優れた知の拠点がありますが、それでも百万都市としてはまだ足りないという意識はありましたね。

國武 豊喜氏

新しい分野に挑戦を

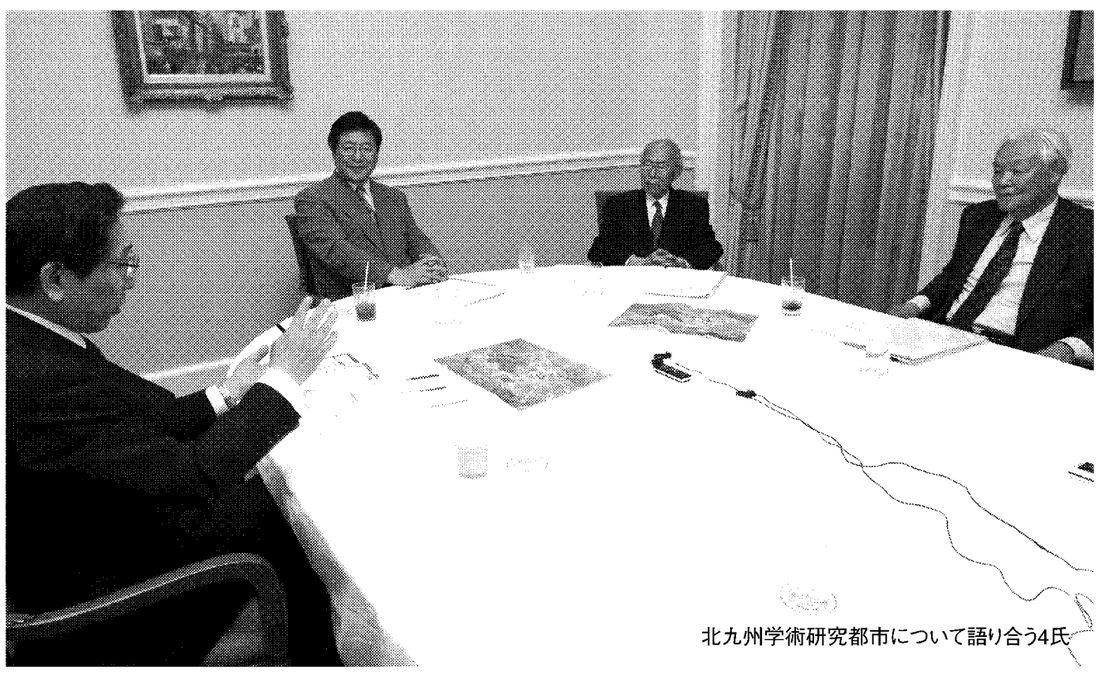
山根　この10年を振り返ってみると、学研都市にはこれまでの日本ではできなかった、理想的な産学官のダイナミックな姿や成果が次々と生まれてきています。だからこそ、この10年をしっかり検証した上でいい方向性を見いだして、地元の企業の方たちに学研都市がいかに有力な援軍になるのかを熱を持って伝え、さらなる参加を促していただきたいと思います。

國武　北九州市のさまざまな地場企業に、時代の変化に先がけて新しい技術や新しい製品を見いだし、また挑戦的な分野を開いていってほしいですね。学研都市側としても、そういう企業の皆さんを、さらに力を入れてどう支援していくかは非常に大きなテーマと思います。

阿南　地元企業の、これからの時代の中心となる若い世代の経営者に期待したいと思います。

有馬　北九州学術研究都市がさらに大いに活躍されることを期待しています。

山根　本日はどうもありがとうございました。


北九州学術研究都市について語り合う4氏

山根　北九州市には新日鐵、TOTO、住友金属小倉、安川電機、シャボン玉石けん、ゼンリンなど、実に多種多様の企業があります。学研都市の設立に当たっては、そういう企業の皆さんの賛同や協力が必要だったと思いますが。

阿南　それは、かなりいろんな形でやったつもりです。ただ、そういう大企業もさることながら、地場の中規模の企業にやっぱり理解してもらわないと、地域には根付かないなという意識がありましたね。

山根　学研都市が文科省の※「知的クラスター創成事業」の実施地域に選定されたのも、いきなりではなく、今までお話しいただいたような流れがあったんですね。

有馬　そうです。もう一つ良かったのは、01年の中央省庁再編によって旧文部省と旧科学技術庁が統合されて文部科学省が誕生したことです。「知的クラスター創成事業」には、かなり科学技術が入ってくる。文部省も科学技術庁と一緒になったことによって、科学技術に対する教育に熱心になりました。

若い経営者に期待

阿南 惟正氏

山根　なるほど。ある意味では歴史の偶然ではあるけれども、学研都市にプラスに働いたんですね。

阿南　「知的クラスター創成事業」があったから国・公・私立という3大学（九州工業大学、北九州市立大学、早稲田大学）を完全に一つにできたし、しかもそのリーダーが國武先生でしたから。

山根　「そろそろ稼いで下さいよ」と言われていませんか。

國武　言われてはいませんが、財政的な自立は大きな課題です。ただ山根さんがよくご存知のシャボン玉石けんのように、学研都市があったからこそ学術的なプラスを得て、画期的な製品（泡消火剤「ミラクルフォーム」）を開発し、世界に出て行っているケースもあります。

阿南　石川鉄工所が開発し製品化した下水道管渠のスクリーニング検査ロボット「もぐりんこ」というのもあります。学研都市が石川鉄工所のような企業といち早く結びついて成果を出したことは、地域との連携の強さが10年間でかなり深まってきたことを物語っていると思います。

國武　ほかにも北九州市立大学の吉塚和治教授が、非常に効率のいいリチウムの抽出に成功しています。

山根　有馬先生、こういう「知」の場が結実していくには、まだ時間がかかりますか。

有馬　そりゃあもちろんかかりますよ。私は「学研都市が今10周年だ」と聞いて、「まだまだベイビーだ」って（笑）。

山根　海外の大学やサイエンスパークとの協定については。

國武　海外の大学は現在、英国のクランフィールド大学のほかに、中国の清華大学、上海交通大学、北京大学が学研都市に研究室を設置して、各大学と共同研究を行っています。それから台湾の新竹、南部、中部の三つのサイエンスパーク、そして韓国の光州テクノパークと交流協定を締結しました。

有馬　重要なことは数は少ないけれど、学研都市に研究室を持っている海外の大学があるということです。これは珍しいんですよ。

國武　清華大学が海外に研究室を出したのは学研都市が初めてということです。

山根　今後のことで、「先導的低炭素化技術研究戦略指針」について、國武先生、お聞かせ下さい。

國武　「先導的低炭素化技術研究戦略指針」は昨年1年かけて、地域の中核企業を中心とした産学官のメンバーで策定しました。ちょうど学研都市が10周年を迎え、これからの10年、地域の技術がどういう方向を目指していくべきかということを議論しているうちに、これからは低炭素だということになったんです。北九州市は素材やエネルギーに関連した企業が非常に多いため、低炭素というのはまともに絡む技術なんですね。

山根　今回の福島の原発事故によって、恐らく向こう10年以上は日本中が電力不足に陥るといわれています。低炭素化だけでなく、省エネが非常に重要な技術の根幹を担ってくると思いますが。

國武　そうですね。一番最近の動きからいうと、北九州市立大学が住居、建築関係の新しい技術開発センターである「建築・都市低炭素化技術開発センター」を作りました。これはまさに住居全体、地域全体をスマートグリッドも含めて、どう省エネしていくか研究するセンターです。

有馬　ゴミ処理に非常に力を入れているのも北九州市の強みですよ。今、新エネルギーの発電で一番活躍しているのは太陽光でもなければ、風力でもない。ゴミ処理による発電ですから。

山根 一眞氏

座談会出席者

初代理事長　有馬（ありま） 朗人（あきと）氏
1930年大阪府生まれ。東京大学理学部物理学科卒業。東京大学総長、理化学研究所理事長、文部大臣、科学技術庁長官、財団法人北九州産業学術推進機構理事長などを歴任。現在、武蔵学園長、静岡文化芸術大学理事長、国際俳句交流協会会長など。文化功労者、旭日大綬章、文化勲章受章。

第2代理事長　阿南（あなみ） 惟正（これまさ）氏
1933年東京都生まれ。東京大学法学部政治学科卒業。新日本製鐵株式会社代表取締役副社長、太平工業株式会社代表取締役社長、同代表取締役会長、同特別顧問。財団法人北九州産業学術推進機構理事長、北九州市立大学理事長などを歴任。現在、北九州市顧問。

現理事長　國武（くにたけ） 豊喜（とよき）氏
1936年福岡県生まれ。ペンシルバニア大学大学院化学専攻博士課程修了。カリフォルニア工科大学博士研究員、九州大学工学部教授、同工学部長、北九州市立大学副学長などを歴任。現在、株式会社ナノメンブレン取締役最高技術責任者、財団法人北九州産業学術推進機構理事長など。紫綬褒章受章、文化功労者。

進行役　山根（やまね） 一眞（かずま）氏
1947年東京都生まれ。ノンフィクション作家。獨協大学外国語学部ドイツ語学科卒業。現在、獨協大学経済学部特任教授。宇宙航空研究開発機構（JAXA）嘱託。福井県文化顧問、月探査に関する懇談会委員（内閣府）、生物多様性戦略検討会委員（農林水産省）、北九州マイスター選考委員など。

※「知的クラスター創成事業」＝初年度である2003年度、北九州市は「北九州学術研究都市・北九州ヒューマンテクノクラスター」として「システムLSIを軸とした新産業の創成」を立案。九州工業大学、北九州市立大学、早稲田大学が核となり、新日鐵化学、日立超LSIシステムズ、NEC、三菱電機、旭テクネイオン、九州大学、明治大学、京都工芸繊維大学、理化学研究所、産業技術総合研究所九州センターなどが参加した。

北九州学術研究都市10周年記念事業
第11回 産学連携フェア　参加無料
知と技術の融合～"新"社会システムへの挑戦、九州から世界へ～
10月19日（水）・20日（木）・21日（金）
【会場】北九州学術研究都市（北九州市若松区ひびきの）
主催：北九州学術研究都市 産学連携フェア実行委員会　㈶北九州産業学術推進機構
記念講演　テーマ「第4期科学技術基本計画と我が国のイノベーション創出」
講師 奥村 直樹氏（内閣府総合科学技術会議議員・元新日本製鐵株式会社代表取締役副社長）
フェアの詳細、記念講演・セミナー・見学ツアーのお申し込みはこちらから　http://fair.ksrp.or.jp

第9回 北九州学術研究都市10周年記念
ひびきの祭　11月5日（土）・6日（日）　参加無料
【会場】北九州学術研究都市
水村くんしろう監修
チャーリー西村 おもしろサイエンスショー
主催：㈶北九州産業学術推進機構　共催：北九州市
同時開催　大学祭　響嵐祭（きょうらんさい）　お笑いライブ
北九州市立大学 ひびきのキャンパス
詳しくは、北九州市政だより、またはホームページで。
ひびきの祭　検索

【北九州学術研究都市に関するお問い合わせ】
■ ㈶北九州産業学術推進機構（FAIS）　TEL 093-695-3111
■ 北九州市産業経済局 新産業振興部 新産業振興課　TEL 093-582-2905